

私はこのノートを通じて皆さんと仲良くなりたいです。



あらすじ

しょうや しょうこ ドラマ
将也と硝子の物語を通じて描く、
「いじめ」そして「障がい者との共生」

転校してきた少女

石田将也のクラスに転校してきた西宮硝子は聴覚障がい者だが、筆談ノートで皆に積極的に語りかける。当初は好意的に硝子を受け入れていたクラスだったが、硝子が原因で授業が止まったり、筆談ノートの煩わしさに徐々にストレスを感じていく。

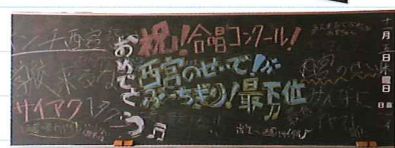
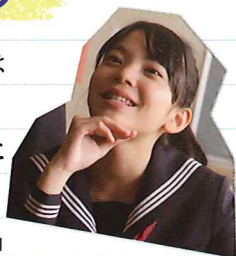
2 合唱祭

学校の名物行事である合唱祭が近づいていた。練習に励むクラスの中でも、発声が苦手な硝子は目立ってしまう。将也に口パクを強要された硝子を見かねた合唱部の佐原は、硝子に問いかける。
「歌いたい？歌いたくない？」



3 いじめの始まり

クラスが合唱祭の入賞を逃したことで、硝子はいじめの標的になってしまう。
黒板や机に悪口を書かれたり、体育の時間にボールをぶつけられたり。
「西宮っていじめられてもいつも笑ってるよな？」
「聞こえてないから平気なんじゃね？」
徐々にエスカレートするいじめ。
そんなある日、最悪の事件が起こる。



4 学級裁判

硝子の怪我の原因を追突する学級会が行われるが、クラスメイト達は、全ての原因を将也になすりつけようとする。周囲の裏切りに愕然とする将也だったが、これが新たないじめの標的となる日々の始まりだった。



人物相関図



▶ 西宮硝子
(ニシミヤ ショウコ)
聴覚障がい者の転校生。クラスに溶け込もうと努力するが、いじめの標的になってしまう。



いじめてしまう



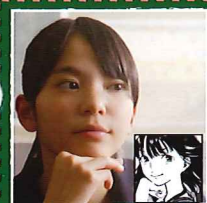
◀ 石田将也
(イシダ ショウヤ)
クラスの人気者。硝子をいじめているつもりが結果的にいじめてしまう。

いじめる

いじめから助けようとする

元々は仲が良かったがいじめる

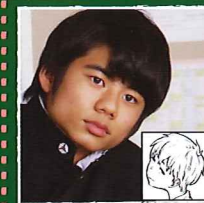
いじめを傍観してしまう



▲ 植野・川井
最初は硝子に対して優しくしていたクラスの女子たち。しかし、合唱祭以降いじめがエスカレートしていく。



▲ 佐原
合唱部員。いじめられる硝子を手助けしようとするが...



▲ 島田・広瀬
将也和仲良し三人組。学級裁判以降、将也をいじめの対象とする。



▲ クラスメイトたち
硝子に対するいじめを傍観したり、笑って参加したりしている。

5 硝子の転校

「西宮はいじめられていた時、何を思ってたんだろう...」
辛い自らの境遇と硝子を重ねる将也。
そんな時に硝子が現れ、傷ついた将也にハンカチを差し出し笑みを浮かべるが、将也は激しく反発する。
「卑怯なんだよ、お前は！一度でも腹の底にある気持ち言ったことあんのかよ！」
激しく詰め寄る将也に、自らの気持ちをその「声」で初めて伝える硝子。
それからしばらくして、硝子は転校してしまう。



6 残されたノート

ある日、将也は自らが投げ捨てた硝子の筆談ノートを見つける。
誰もいなくなった教室で一人、ノートを見返す将也。
そこには誰も気に留めなかった硝子の「声」が溢れていた。
「あの時、アイツの声が聞こえていれば。
いやアイツの声を聞こうとしていれば...」
将也の頬に一筋の涙が伝う...



【学習のねらい】

- ドラマ内で描かれる
“いじめのメカニズム”を知る。
- いじめに悩む人の気持ちを想像し、
いじめを防ぐ方法や加害者に対して
どういう行動が取れるのか考える。
- 障がいのある友人との接し方
について考える。

【収録資料】

本DVDは、授業でお使い頂きやすい様に、
以下の資料をデータ収録しています!!

● 学習指導案

本DVDを利用した50分授業の学習のねらいや目標、指導展開案など

● ワークシート案

学習指導案に則った構成で、生徒の意見を引き出しやすい設問案

作成協力：岡崎市立葵中学校

【原作について】

「いじめとは何か?」「障がいと向き合うとは?」

そんな難しいテーマに、少年
誌にも拘らず正面からぶつかり、
爽やかな物語へと巧みに
昇華した原作「聲の形」は週刊
少年マガジンにて連載し、
2014年に完結。(単行本全7巻)
連載終了後も、「このマンガが
すごい!」オトコ編 第1位に選
ばれるなど多くの読者の心を
打ち続けている。



▲コミック第1巻



▲本DVDパッケージ

©大今良時/講談社

【監修に寄せて】

一般財団法人 全日本ろうあ連盟

もし教室に耳の聞こえない生徒がいたら…、
先生の声、クラスメイトの声が届かない生徒が。

DVD「聲の形」は耳の聞こえない硝子を取り巻く学校生活の現実を
率直に描いていると思います。聞こえない生徒に皆の声を届け、自らの
メッセージを伝えられる方法のひとつに手話があります。手話は
目で見て手や表情などで伝える言語です。今、小学校や中学校で聞
こえない人や手話への理解を広める取り組みが広がっています。皆が
手話を学び、聞こえない生徒も生き生きとコミュニケーションができる
社会となることを願ってやみません。

先生や生徒たちが硝子へ自分たちのメッセージを伝え、硝子のメッ
セージをどう受け止めるか、そのコミュニケーション方法も含めて一人
ひとりが考えてほしいと思います。

監督:高橋浩/脚本:松島恵利子/プロデューサー:岡部圭一郎/キャスティングプロデューサー:福岡康裕/音楽プロデューサー:津島玄一

音楽:加藤亜祐美/ラインプロデューサー:石川貴博/演技指導:手話あいらんど/取材協力:東京都立葛飾ろう学校

原作:大今良時「聲の形」(講談社「週刊少年マガジン」連載)/制作プロダクション:東映東京撮影所

製作:東映株式会社 教育映像部 ©大今良時/講談社 2015年度作品

予告編配信中!

教育映像

検索

<http://www.toei.co.jp/edu/>



東映株式会社 教育映像部

<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631

関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026

広島出張所 広島市中区橋本町5-2 〒730-0015 ☎082-511-2066

福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

お買上げは

S

道徳教材ドラマ

対象と用途
中学校向け 道徳・特別活動



あの時、アイツの声が聞こえていれば...

聲の形

こ え の か た ち

本作について

道徳の授業の教科化に伴い、如何にして子ども達を
「心の豊かな人間」に育てるか様々な議論がなされて
おります。
原作の「聲の形(こえのかたち)」(講談社)は、現代の
子どものリアルな表情を描きつつ、「いじめ」や「障がい
者との共生」などの難しいテーマを、読者が自然に考え
る事のできる優れた物語であり、人権意識を常に高く持
っていないと、周囲の人間を傷つける可能性がある事を
教えてくれます。
本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを
付加したドラマ形式の学習教材です。
「いじめ」や「障がい」に対する意識と知識を高め、学校
や家庭内で話し合うきっかけとしてお役立て下さい。

授業で使いやすい

学習指導案

ワークシート

付き

上映時間:30分[C #0650]

DVD 66,000円(税別)

字幕版付き

監修：一般財団法人 全日本ろうあ連盟